

Farm Report

新冠タガノファーム

新冠町明和

タガノビューティーのふるさとを訪ねて。

重賞初勝利が7歳秋のJBCスプリント(JpnI)という離れ業をやったのけたタガノビューティー。デビューから2連勝をおさめて朝日杯フューチュリティS(GI)でも4着した同馬に“大器晩成、という言葉は当てはまらないかもしれないが、デビュー38戦目、重賞挑戦19回目にしてようやくたどり着いたビッグタイトルだった。

タガノビューティーの生まれ故郷は、新冠町明和の新冠タガノファーム。かつて京都馬主会の会長を務めたこともある八木良司オーナーが2003年に立ち上げた牧場で、その前年に創設された宇治田原優駿ステーブル(京都府)を含め、サラブレッドの生産から育成までを一貫して行うオーナーブリーダーである。これまでにタガノグランパ(14年・ファルコンS)、タガノジンガロ(14年・かきつばた記念)、タガノエスプレッソ(14年・デイリー杯2歳S、障害重賞3勝)、タガノアザガル(15年・ファルコンS)、タガノトネール(15年・サマーチャンピオン、16年・武蔵野S)、タガノディグオ(17年・兵庫チャンピオンシップ)など多くの活躍馬を送り出してきたが、生産馬のGI級競走優勝はこれが初めてだった。

「当日のJBC2歳優駿にタガノマカシヤ(八木良司オーナー、八木牧場生産)が出走していたので、タガノビューティーのレースは門別競馬場のモニターで見っていました」

と話すのは、創業時から八木オーナーの右腕として新冠タガノファームをいっしょに創り上げてきた田沼正美さん。それ以前は名門・荻伏牧場で長年勤務しており、八木オーナーとはその頃に知り合ったと言う。

「佐賀競馬場は小回りで直線が短く、いつものように後ろからだ脚を余してしまいそうなので、『たまには前で競馬をしてくれないかな…』と話していたら、向正面で上がっていった3コーナーをまわったら先頭に立ったでしょ。ビックリしちゃって。驚いているうちにゴールを迎えて、『えっ!?ウソでしょ?勝っちゃったの?』という感じでした。レースのあともあまり実感がわいてこなかったのですが、牧場に戻ると次から次にお花やお祝いが届き、改めて『ビューティーは凄いことをやってくれたんだなあ』と感激しました」

かしわ記念(JpnI)は23年、24年と2年つづけて2着、24年のフェブラリーS(GI)でも僅差の4着とあと一歩のところまで迫っていた悲願のGI級タイトルだが、その瞬間というのは意外とあっさり訪れるものなのかもしれない。

「オーナーも相当うれしかったんでしょうね。お孫さんに聞くと、早朝から何度も何度もレースを見返しているそうです(笑)。それを聞いて『少しはオーナーに恩返しができたかな…』とスタッフみんなで思っているんです」

パートを含めて 11 名で 30 頭の繁殖牝馬を管理している新冠タガノファーム。ベテランスタッフが多く、配合はみんなで話し合っていて決めているようだ。

「タガノビューティーの母スペシャルディナーはオーナーが懇意にしている深見富朗さんの所有していた競走馬で、引退後に譲り受けてうちで繁殖生活を始めました」

すると、2 番仔のタガノブルグ（牡、父ヨハネスブルグ）がNHKマイルカップ（G Ⅰ）で2着する活躍を見せ、6 番仔のイトーン（牡、父キングズベスト）は若葉Sに勝って皐月賞（G Ⅰ）や菊花賞（G Ⅰ）にも出走。そしてヘニーヒューズを交配して生まれた8 番仔がタガノビューティーだった。

「不思議とこの血統は牡馬がよく走るんですよ。タガノビューティーは競馬に行くと気の強いところを見せているようですが、牧場にいる頃は手のかからない素直な性格の馬でした」

新冠タガノファームの放牧地で健やかに育ったタガノビューティーは、宇治田原優駿ステーブルでの育成を経て栗東の西園正都厩舎に入厩。2 歳8月の新馬戦（新潟・ダート1 8 0 0 m）でデビュー勝ちをおさめると、ダートの出世レースとして名高いプラタナス賞（東京・ダート1 6 0 0 m）も快勝。同レースの勝ち馬エピカリスやルヴァンスレーヴのようにダート路線を突き進むと思いきや、次走は芝のG Ⅰ・朝日杯フューチュリティS（阪神・芝1 6 0 0 m）に挑戦し、後方から鋭く追い込んで4着。芝レースでもトップクラスの能力を示して2 歳シーズンを締めくくった。

そして3 歳初戦も芝重賞のシンザン記念（京都・芝1 6 0 0 m）へ出走したが、ここで6着に敗れると再びダート路線へ。以降は7 歳秋にJ p n l 馬の仲間入りをするまで、一貫してダート路線を歩んできた。

その戦績の中で特筆すべきは、デビューからほぼ休みなく走りつづけてきた体の丈夫さと、どんな相手のレースでも上位に食い込んでくる堅実性。2 歳時3 戦、3 歳時8 戦、4 歳時7 戦、5 歳時8 戦、6 歳時6 戦、7 歳時6 戦とコンスタントに出走を重ね、1 着8 回、2 着8 回、3 着5 回、4 着8 回、5 着1 回。出走した 38 戦のうち 30 回で掲示板を確保し、21 回は馬券対象となっている。まさに“馬主孝行、を絵に描いたような馬で、馬券を買うファンにとっても頼もしい存在だ。

タガノビューティーは、8 歳となった今年も現役をつづけると言う。

「競走馬は競馬場で走っている時が花。できるだけ長く現役でいるほうが幸せだと思っているんです。西園調教師が来年2 月で定年なので、『先生、最後までビューティーの面倒見てくださいね』と頼んでおきました」

次走は2 月2 日（日）の根岸S（東京・ダート1 4 0 0 m）を予定。その後は昨年、コンマ2 秒差4 着と悔し涙を呑んだフェブラリーS（東京・ダート1 6 0 0 m）へJ B C スプリントウイナーとして臨むことになりそうだ。

一方、母のスペシャルディナーは生涯 13 頭の仔を産み、残念ながらタガノビューティーのJ p n l 勝利を見届けることなく天に旅立った。現在はタガノビューティーの1 歳下の

半妹タガノタイリン（父アイルハヴアナザー）が里帰りし、その血をつないでいる。

「タガノタイリンのお腹には、タガノエスプレッソの仔が入ってるんですよ。夢があるでしょ」

そう言ってほほ笑む田沼さん。新冠タガノファームでは現在、種牡馬としてタガノエスプレッソ（父ブラックタイド）とダイシンサンダー（父アドマイヤムーン）を繋養しており、スタッフ総出で種付けも行っているそう。

“将来、タガノビューティーも種牡馬ラインナップに加わるかもしれませんね、と話を向けると、「勘弁してよ。年寄りにとって種付けは重労働なんだから」と田沼さんは豪快に笑った。

Tagano Beauty

牡、鹿毛、2017年3月16日生

父／ヘニーヒューズ by ヘネシー

母／スペシャルディナー by スペシャルウィーク

生産者／新冠タガノファーム（新冠）

馬主／八木良司氏

調教師／西園正都（栗東）

戦績／38戦8勝（Jpn I 1勝）

総賞金／3億9805万円

※2025年1月20日現在（現役馬）